

# あだたら

第401号

発行所 山形県あだたら市  
編集 山形県あだたら市

四月二日(土)

桑折町・半田山

報告 編集部



12時45分、山頂出発、下山開始

当日は良く晴れた。八時四十分には□□宅脇に□□□□さん来訪、一緒に松川駅へ。松川駅で□□□□さんと合流して半田山へ向かった。国道四号からの分岐間違えて、伊達郡役所の前通って、遠回りして半田山管理センターへ。□□さんは既に来ていた。当会は半田山には、二〇〇四年と二〇一三年の二度訪れている。二〇〇四年の十二月の新人歓迎山行半田山、二十二名参加(会報二〇二号)、□□□□さんは林間駐車場から往復。私は車運転して二人をサポートした。その後二〇一三年の県北支部交

●編集部連絡先  
二本松市郡内1-5-5  
0243(22) 4245  
F a x 可 渡辺 正

流会で□□さん□□さんと利用した(会報三〇〇号)。酒たっぷり呑んで半田山登らずに翌朝早く帰宅した。だから頂上直下に「林間駐車場」があり、そこからは急勾配を登れば直ぐ山頂だ、と記憶していた。そこで「林間駐車場」迄行くつもりで、管理センター上から、林道「南半田・赤坂線」に入った。更に林道「産ケ沢線」に入って、「林間駐車場」を目指した。積雪期なので余り利用されていないようで、木の枝などが沢山落ちていて、やがて道路上に積雪が現れ、これ以上走れなくなった。引き返すしかない。管理センター上の駐車場迄戻って、身支度して十時三十四分出発。このルート登るのには私にとって初めてだ。しばらくは緩やかな針葉樹林、足元には雪が残る。下って来た人

人。やがて広葉樹林となり登りが始まる。日射しがある。このあたりで小休止、フキノトウ出始めている。十一時十六分林道に合流、四十分少々。林道歩いて

林間駐車場着。此処まで車で来れると、迎撃だったの急登が始まる。そんなに長くはないが、傾斜はかなり急で、結構辛い登りだ。十二時四分、山頂到着。林間駐車場からはほぼ四十分の急登だった。山頂には一等三角点と、五基の石祠があるが、中の三基は、横の刻字を見ると新しく昭和四十一年の設置、両側の二基は刻字が一部しか読めない。古いものかも知れない。ここで昼食。良く晴れて、風が無いのが有り難い。足元には桑折の町、国見町、阿武隈川の向こうは保原・梁川の町だ。霊山の南側の崖がよくわかる。公立藤田病院がよくわかる。その近くの道の駅で、精算しようという話になっていた。十二時四十五分山頂発、フキノトウ取りながら下山、十三時五十分駐車場到着、一時間八分。

ここから 道の駅「国見あつかしの郷」迄が大変。とにかく、小坂街道に出ようとして、北を指して、神様(益子神社?)、グーグルマップの前通って、何とか小坂街道に出た。道の駅まで結構な時間掛かってしまった。道の駅で□□□□さんに「イカ焼き」おごって貰った。美味しかった。帰り道、□□□□さん□□さん自宅近くで下ろして、二本松迄無事に戻りました。四月山行、半田山の写真は次頁にも。

## 会員・□□さんご逝去

報告・事務局

先月二十八日、十八時四十分、会員の□□□□さんが、二十七日に誤飲性肺炎で死去された由、奥様から事務



2002-11-09 太郎坊山にて

局に電話頂きました。八十九歳でした。□□さんは、一九七三(昭和四十八)年五月十日の入会、今年で四十九年目。国鉄におつとめで、国鉄の山岳会、日本山岳会の会員でもありました。私(□□□)が、□□さんと一緒に頂上を歩いたのは二〇〇〇年十二月の飯館村・野手上山山行(会報一五八号)、同じ号に「岳温泉の石城山岳会の小屋借用」。翌年九月の鳥海山山行(会報一六五号)、十二月九日の日山での新人歓迎山行(会報一六八号)、二

〇〇二年九月の那須連峰、三本槍岳(会報一七六号)。また山頂稜線の名所「二つ門」も教えて頂きました。六角川の河川改修で少し離れた場所に移転される前のお宅には、会員の□□□さんと、しょっちゅうお邪魔していたものです。その後はお訪ねすることもなく、訃報を頂きました。ご冥福をお祈りいたします。



2001年12月9日、新入会員歓迎・日山にて、□□さん(前列中央)と参加者達

1ト形に見える。ここから急登が始まる。そんなに長くはないが、傾斜はかなり急で、結構辛い登りだ。十二時四分、山頂到着。林間駐車場からはほぼ四十分の急登だった。山頂には一等三角点と、五基の石祠があるが、中の三基は、横の刻字を見ると新しく昭和四十一年の設置、両側の二基は刻字が一部しか読めない。古いものかも知れない。ここで昼食。良く晴れて、風が無いのが有り難い。足元には桑折の町、国見町、阿武隈川の向こうは保原・梁川の町だ。霊山の南側の崖がよくわかる。公立藤田病院がよくわかる。その近くの道の駅で、精算しようという話になっていた。十二時四十五分山頂発、フキノトウ取りながら下山、十三時五十分駐車場到着、一時間八分。

ここから 道の駅「国見あつかしの郷」迄が大変。とにかく、小坂街道に出ようとして、北を指して、神様(益子神社?)、グーグルマップの前通って、何とか小坂街道に出た。道の駅まで結構な時間掛かってしまった。道の駅で□□□□さんに「イカ焼き」おごって貰った。美味しかった。帰り道、□□□□さん□□さん自宅近くで下ろして、二本松迄無事に戻りました。四月山行、半田山の写真は次頁にも。



今年(2022)の雪山山行

報告 □□□□

二月十七日、三月九日・回太山



2月9日、2回目の口太山

今年の冬は年明より寒波や雪が多い。体力維持に一月十七日口太山へ。県道六号、針道より夏無沼より山頂コースに入る。県道、空地に車止めた。五、十位の雪が残るが、車は上がっている様だ。登山も何人が足跡が残っている。山頂には親子で作ったと思われる雪ダルマ、二ツ並んで立



三月一日・奥岳

晴天で風も無い三月一日、朝準備をし、奥岳で入山届を出し十時出発。アイゼンを付け冬の安達太良初山行。トレースもあり安心して登れそう。途中若いカップルと会う、山は風も無く最高との事。休憩を取りながらマイペースで雪山の風景を楽しみながら登る。今年は今迄より雪が多

っていた。眺望を楽しみ下山。夏無沼から戸沢方面への車道を下る。二回目の登山も同じコースで二月九日に入る。この日は病院予約があり、早い時間だったので、十時には帰宅。早い昼食を摂り、登山口十二時に出発。県道から分かれた車道には十五位の雪があり、車も途中から引き返した様で、その上は動物の足跡だけ。車道でアイゼンを付け、山道に入る。急登もアイゼンを付けたので滑る事無く登る事が出来たが山頂手前には吹溜が有り、膝の上まで入るが、長くは無いので、山頂へ着く事が出来た。山頂には私を待っていたかの様に雪ダルマが迎えてくれた。安達太良・吾妻山など真っ白な風景を楽しみ同じコースをアイゼンを付けたまま、車迄戻る。

く、又強風もなかったのか吹溜も少ない。勢至平の勢至塔は雪の中で確認出来ず、勢至分岐の角の案内場も雪の中で確認することが出来なかった。金明水手前で、私の十二時山頂の計画は時間切れとなり、記念写真を撮り勢至分岐まで下山する。

三月十三日・蓬田岳



三月山行蓬田岳、妻と二人個人山行で行く。ジューピアラウンド駐車場十時。下山して来た登山者の話によると、体験コースは残雪があり滑るとの事で計画に入れていたが諦め、蓬田新田コースを登る事にした。途中下山して来た二人組の男性の話ではアジサイ公園口から登ったとの事。コースに少し雪があるが、気にする程でないとの事。休憩をしながら山頂へ。十二時春籠みで眺望は楽しむことは出

り、一人静かに昼食、カゴ山ルートより男性一人、アイゼンだけで下山して来る。少し入る(潜る)所もあるが、大丈夫だったとの事、雪山の感触を十二分に味わい、二時半、奥岳へ下山する。

来ないが、登山道や山頂の立木が切られ、眼下に広がる公園や四九号国道など楽しみなが昼食休憩。一時アジサイ公園の方へ初めてコースを下る事に。新田コース分岐点より分かれ、二、三十分位進むと大きな岩となり狭い岩の割れ目(大きなザックでは通れない)を登る。目印の布が多く、スリルのあるコースだ。雑木林の中、急な下り、落ち葉で滑るので、足元に注意しながらの下山。目印の布も付いているので、安心して下山する事が出来た。大きなアジサイ公園の中を通り、駐車場に整備された「体験コース」より整備されていないコースの方が、私は好きだ。



半田山、13時53分、下山して撮影、奥正面が山頂



3月20日、日山

の山頂であった。一時間ほど休憩していると若い女性一人で登って来た。下山時は一人の男性が。今回の日山では、二人に逢っただけだ。山頂の祠、十六日の大地震で、被害に合い、修復には大変だと思ふ。地震の恐ろしさを感じた山行であった。

三月二十日の冬山パトロール、中止のメールが入る。仕事の方も切れ、田畑も雪で入る事が出来ずSさん誘い日山へ行く。田沢登山口

十時出発。山道は全面雪。木の枝に付いた雪がツララとなり、重みで多くの枝が折れ、山道に散乱して歩きにくい。山頂十二時少し前に、別コースからの一人の足跡があるだけで綺麗な雪



半田山、12時15分、山頂で昼食中

編集後記 四〇一

◆今年の冬山パトロール、二月二十日、参加希望者は事務局だけ、□□さんがつきあってくれる由、天候不良で延期のつもりが結局無し。三月二十日、参加希望者三名、天候不良と十六日の大地震の後始末大変で中止。今シーズンはパトロール、一月だけだった。私は今年まだ山頂行ってない。

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのですが、手書きも歓迎、FAXも受信できます。